

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
2024年度第1回学校関係者評価委員会

**日 時** 2024年4月19日（金）16:30~17:30

**委 員** 品濃町内会関係者様、西横浜国際病院関係者様、東戸塚記念病院関係者様、  
亀田森の里病院関係者様、学校長、担当グループグループ長、教務グループリーダー、サブ  
リーダー2名、ほか教職員4名

**内 容**

**I. 校長挨拶**

本日は、ご出席いただきありがとうございます。国家試験はPT学科98.8%、OT学科94.6%の合格率で、ともに全国の合格率を上回る結果でした。また、4月にはPT学科86名、OT学科44名の新入生を迎え新年度がスタートいたしました。昨年度の1年生には数名が進路変更やカリキュラムについていけず退学した者がいましたが、委員のみなさまのご意見をうかがいながら、より良い学校運営を進めたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

**II. 自己評価表（全て資料に基づき報告）**

自己評価表に基づき、各担当より2023年度後期達成状況と2024年度前期課題について報告がなされた。

**III. 質問・意見**

松田委員：今年度は地域のイベントも多く行われる予定である。ぜひ多くの学生の参加をお願いしたい。

戸羽委員：昨年度から高校生職場見学を受け入れたが、コミュニケーション力がある学生さんが多い印象を受けている。御校では指定規則より多い単位数でカリキュラムが組まれているが、特別な取り組みをされているのであればうかがいたい。また、学生の負担はどうか。

中村（PT学科長）：カリキュラム構成にあたっては、大学との差別化を図っている。本校では、初年次より臨床系や実技系の科目を増やしている。また、志望動機が自身のケガという学生も多いため、スポーツ系の科目増設やテクノロジーの進化にともないロボティクスという科目も増設した。

水島（OT学科長）：学生に魅力あるカリキュラム構成を心がけ、科目名も「インクルーシブデザイン学」や「e-アクティビティ」などイメージしやすい名称へ変更した。専門科目は増やしているが、学生から負担が多いという意見は出ていない。

戸羽委員：最近の新人職員は自己研鑽に時間を費やす余裕がないように感じる。勉強はできるだけ学生のうちにしておいてほしい。

藤井委員：科目名称の変更は、非常にわかりやすくよいと思う。それがOT学科入学生の早めの充足につながったのではないかと。新入職員には学習習慣ができていない方がいる。習慣がない新人は、自己研鑽を非常にストレスに感じるようだ。ポイント制度もよい効果を生むと期待している。

OTの実習後のOSCEは介入OSCEのようなのだが、実習内容にてOSCEを実施しているのか。

水島：教員が模擬患者となり、それぞれの学生が実習で経験した内容にて、作業療法介入の OSCE を行っている。

藤井委員：学生の OSCE 完成度はどうか。

水島：MTDLP に即して実施するため、生活場面への介入を期待しているが、その視点や介入が不十分な学生もいる。徐々に改善が見られるため、引き続き進めていきたい。

藤井委員：当院でも実習生を受け入れており、実習時の指導にも生かしたいため、ぜひ実習後 OSCE の結果を実習施設へフィードバックしていただきたい。

重田委員：臨床実習での 1 対 2 モデル（指導者 1 名に対して学生 2 名）を加速するためのアクションプランがあればうかがいたい。

中村（PT 学科長）：昨年度実習では、1 対 2 は実習全体の 20% に留まる。今年度の 4 年次臨床実習指導者会議にて、1 対 2 を導入している施設の指導者に講演を依頼し、1 対 2 への理解を促した。1 対 2 のメリットとして、「他学生の実技場面を見学することで、自身の行動を客観的に考えることができる」「学生同士の討議で、より理解を深めることができる」「ハラスメントが生じにくい」などが挙げられる。異なる学年での組み合わせも上級生が下級生に教えるという役割ができ、よい効果があると聞いている。

重田委員：当院でも変則的に 1 対 2 モデルを取り入れ、4 年生が見学実習の 1 年生に指導するなど、よい面が見られる。一方、経験年数が少ない指導者からは、指導が難しいという声も聞かれる。施設職員も一層の研鑽が必要と考えている。

中村（PT 学科長）：ぜひお願いしたい。

#### IV. 総括（渡邊担当グループリーダー）

様々なご意見をいただきありがとうございました。今年度、岩崎学園では組織改編を行い、マーケティングと教育事業創造に重点をおき、促進する方向で舵を切っています。マーケティングでは、価値観が多様化している高校生のなかで、「医療」に興味をもつ学生が「リハ」に集まる仕掛けを考え、それをより外部発信することが必要です。そのため、教育事業において、大学との差別化を図るカリキュラムを構成し、実践力を養い活躍できる卒業生を多く輩出したいと考えています。今後も地域や病院との連携を強めていきたいと考えていますので、引き続きよろしく願いいたします。

#### IV. その他

##### 1. 次回の会議について（中村）

今年度第 2 回の会議は、2024 年 10 月 18 日（金）16:30 に開催予定です。よろしく願いいたします。

以上

文責：田中